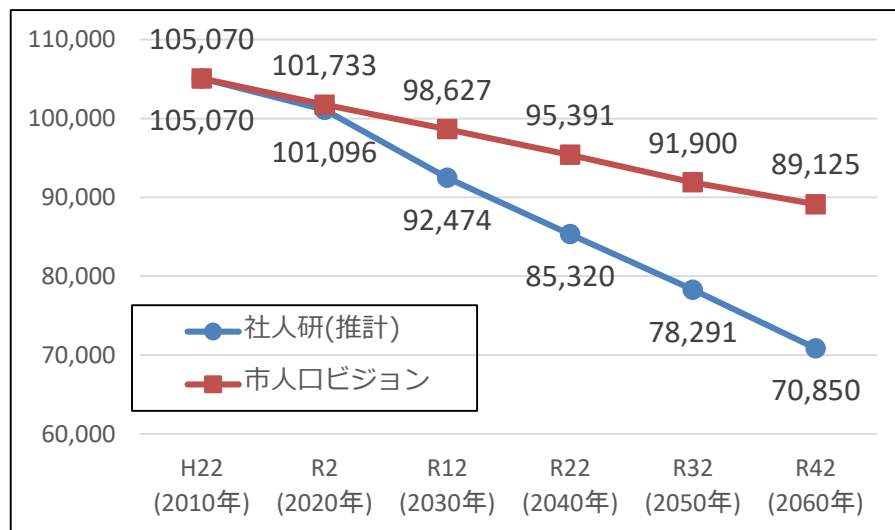


第3期鹿屋市まち・ひと・しごと創生 総合戦略の取組状況について

**令和8年8月
鹿屋市総合政策課**

1-1 鹿屋市人口ビジョンと総合戦略

鹿屋市人口ビジョン



※社人研：国立社会保障・人口問題研究所（2015国勢調査基準）

<人口の将来目標>

2060年に9万人程度の人口を維持する

①自然増減

2030（令和12）年に合計特殊出生率が2.1となるように段階的に引き上げる。

②社会増減

2020（令和2）年から転入・転出を均衡させる。

◆R4策定の人口ビジョンの人口推計は国立社会保障・人口問題研究所（2015国勢調査基準）であるが、本頁の推計人口は、最新の2020国勢調査基準で推計した数値

第3期鹿屋市総合戦略



■基本目標① やってみたい仕事広がるまち

- ・活力ある農林水産業の振興
- ・商工業の振興と雇用の促進

■基本目標② 交流で賑わうまち

- ・地域資源を生かした観光の推進
- ・スポーツによる交流の推進
- ・移住・定住の推進

■基本目標③ こども・若者の未来を創るまち

- ・こども・若者を育む環境の充実
- ・未来を拓く教育の充実

■基本目標④ 安心して暮らし続けられるまち

- ・快適な生活基盤づくりの推進
- ・安全で安心な生活の実現
- ・自然環境にやさしいまちづくりの推進

■基本目標⑤ とともに支えあい、いきいきと

暮らせるまち

- ・地域福祉の充実
- ・健康づくり・生きがいづくりの推進
- ・共生協働・コミュニティ活動の推進

1-2 人口ビジョンの目標人口と人口推移

人口の推移について

- 本市の人口は減少し続けており、R3からの5年間で、約4,400人減少している。
- 人口推移は、R1年以降は人口ビジョンの目標値を下回り、R5年以降は社人研の推計値も下回っている。

年	①社人研推計 (※1)	②人口ビジョン目標 (※2)	③人口推移 (※3)	③人口推移－ ①社人研	③人口推移－ ②人口ビジョン
H28	102,462	102,888	103,224	<u>+762</u>	<u>+336</u>
H29	101,950	102,599	103,114	<u>+1,164</u>	<u>+515</u>
H30	101,437	102,311	102,397	<u>+960</u>	<u>+86</u>
R01	100,925	102,022	101,757	<u>+832</u>	<u>▲265</u>
R02	101,003	101,733	101,096	<u>+93</u>	<u>▲637</u>
R03	100,307	101,414	100,493	<u>+186</u>	<u>▲921</u>
R04	99,611	101,095	99,736	<u>+125</u>	<u>▲1,359</u>
R05	98,916	100,777	98,594	<u>▲322</u>	<u>▲2,183</u>
R06	98,220	100,458	97,574	<u>▲646</u>	<u>▲2,884</u>
R07	97,524	100,139	96,073	<u>▲1,451</u>	<u>▲4,066</u>
R12	93,736	98,627	—	約▲4,400人	—
R42	69,656	89,125	—	—	—

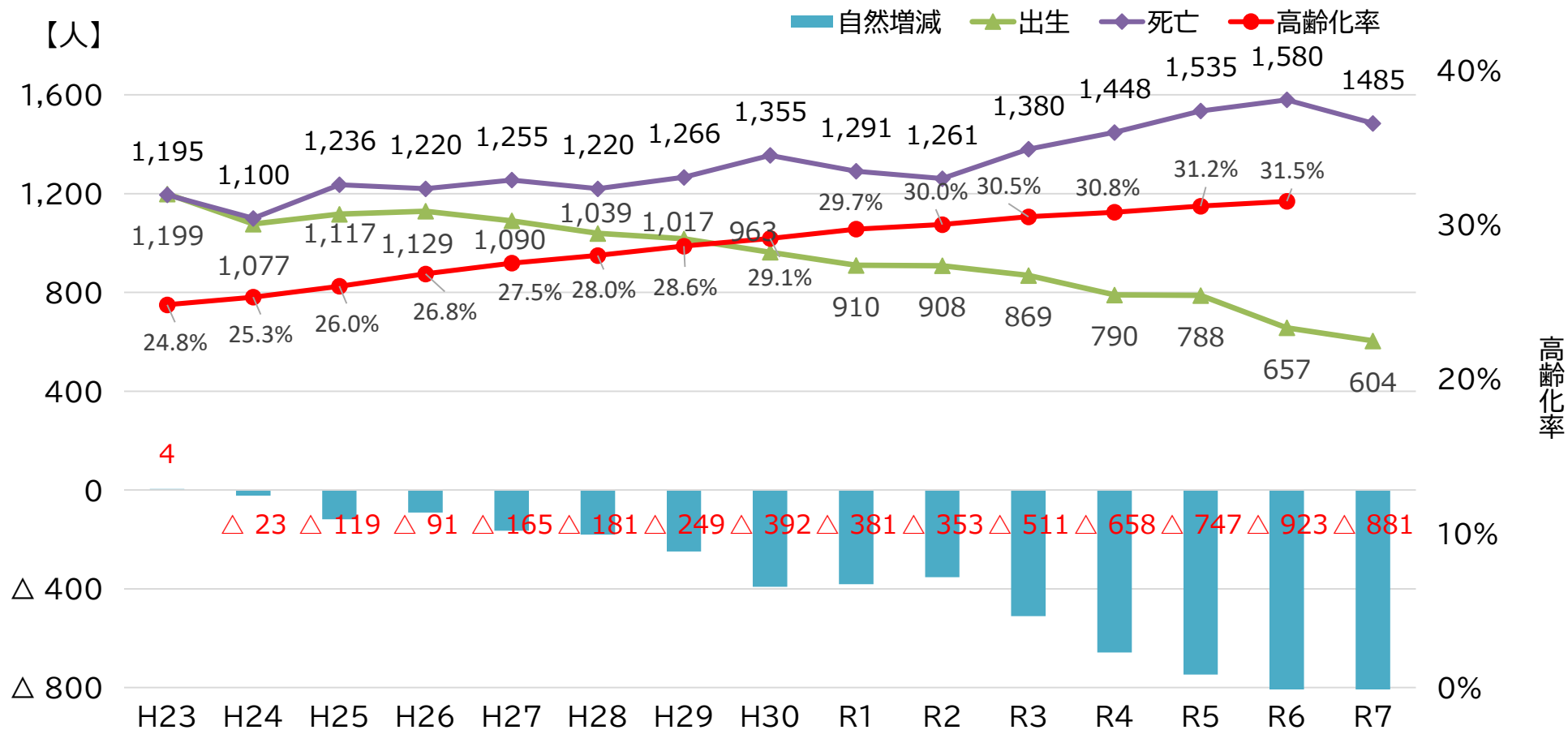
※1 国立社会保障・人口問題研究所が国勢調査（2015）を基に推計した値 ※2 H27(2015) 策定の人口ビジョンで定めた目標値

※3 県人口移動調査(H28～R元、R3～R7)各年10月1日現在、国勢調査（R7（2025）速報値）

1-3 人口動態（自然増減）の推移

自然増減の推移

- ・出生数は減少傾向が続いており、600人を下回る水準に近づいている。
⇒婚姻数の減少（H28:520件⇒R6:318件）も、要因の一つと考えられる。
- ・死亡数は、高齢化の進行に伴い、今後も高い水準で推移すると見込まれる。



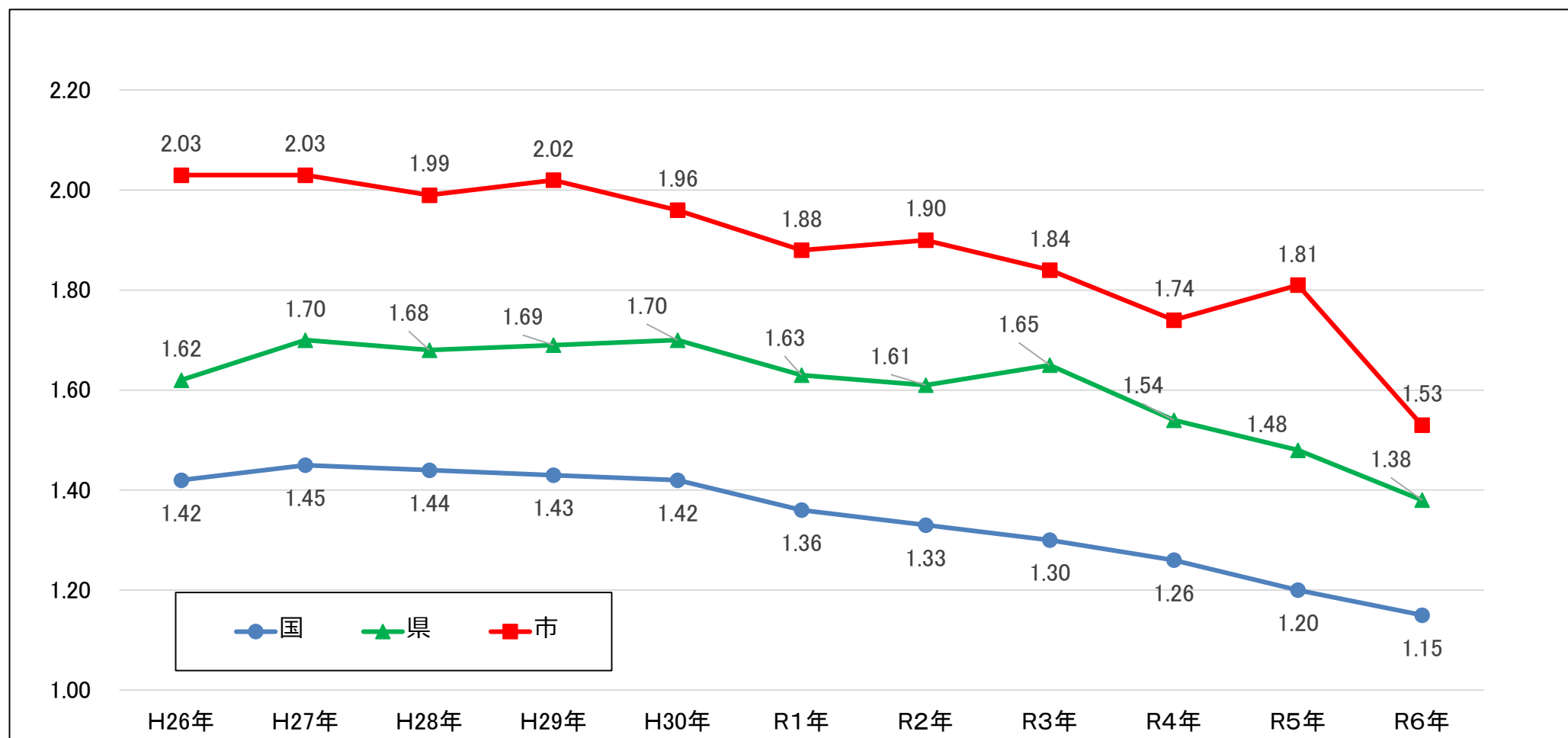
【出典】 鹿児島県「人口動態統計調査」、鹿児島県「人口移動調査」、鹿屋市「住民基本台帳月報」

※高齢化率は、鹿児島県の令和7年度データ未公表。

1-4 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率の推移

- 本市の合計特殊出生率は国、県と比較して高い水準にあるが、人口置換水準の2.07には届いておらず、近年では減少に転じている。

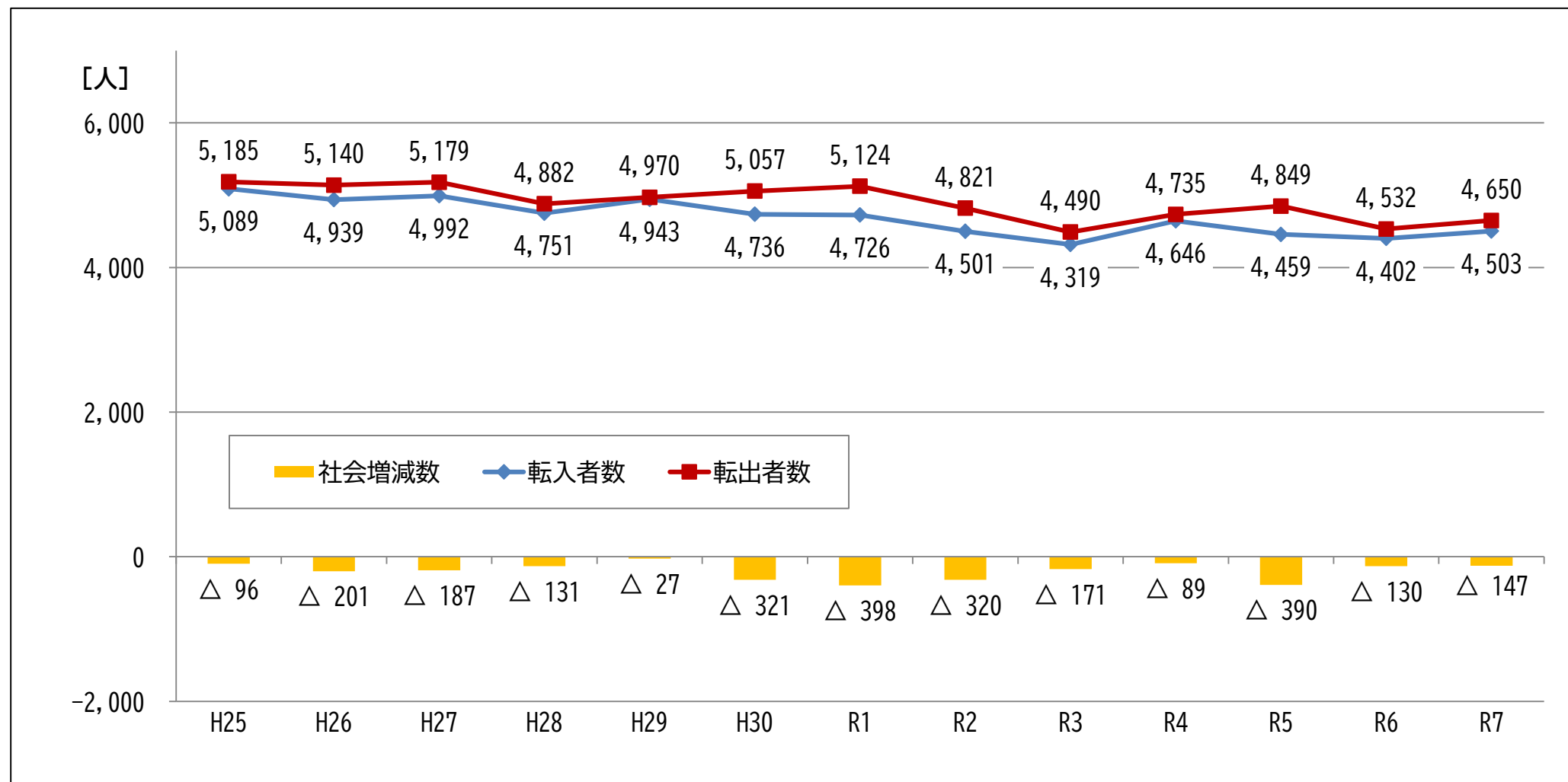


【出典】厚生労働省「人口動態統計」、鹿児島県「人口動態統計調査」、鹿屋市「住民基本台帳月報」

1-5 人口動態（社会増減）の推移（外国人含む）

社会増減の推移（外国人含む）

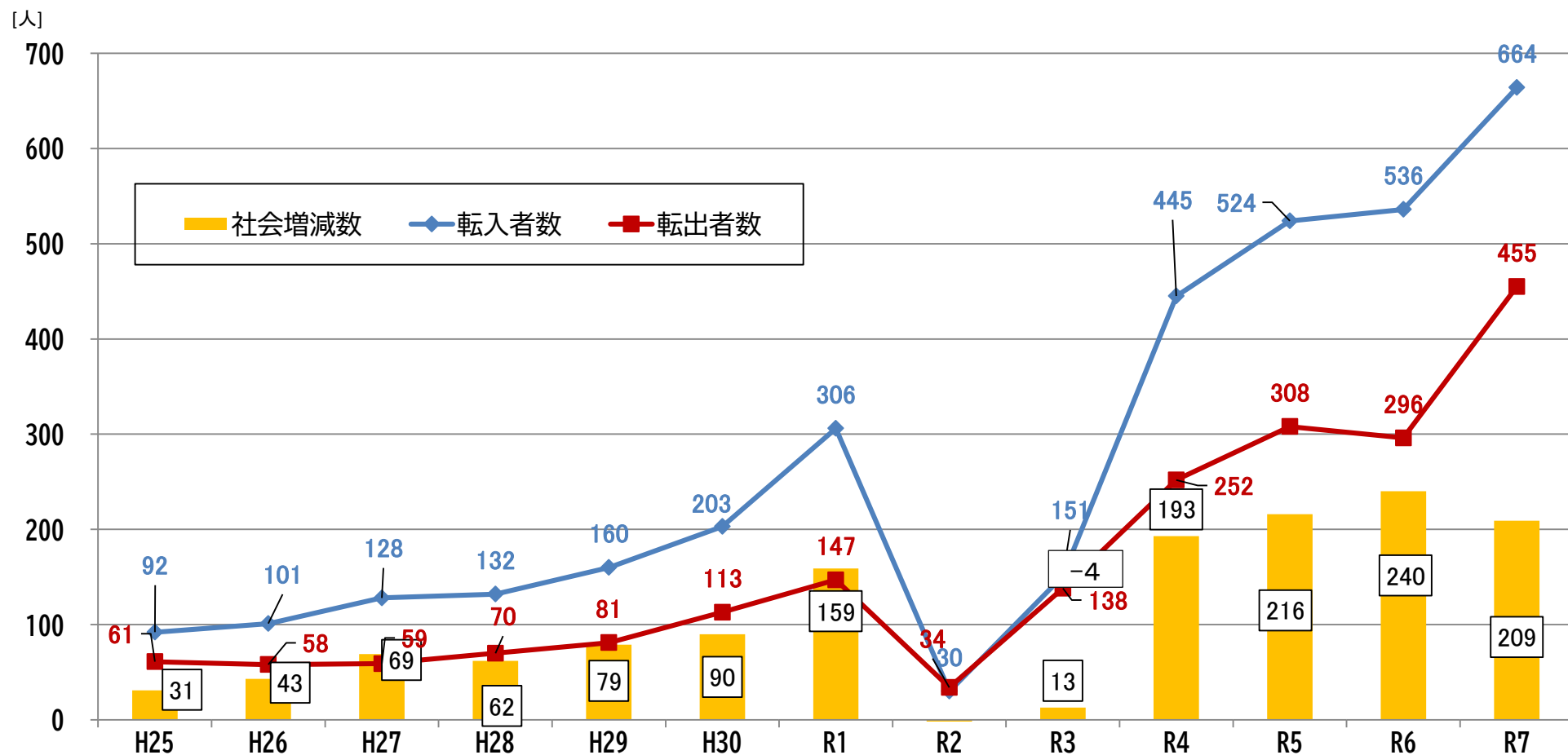
- ・ 社会増減は、転出者数が転入者数を上回る状態が続いているが、10年前から社会増減はおおむね均衡している。
（外国人の転入超過により、社会減の拡大が抑制され、社会増減の下支えとなっている）



1-6 人口動態（外国人の社会増減）の推移

社会増減の推移（外国人）

外国人の社会増減は増加傾向にあり、コロナ禍以降その増加が顕著である。
（令和7年には転入664人、転出455人を記録し、転入・転出ともに規模が拡大している。）

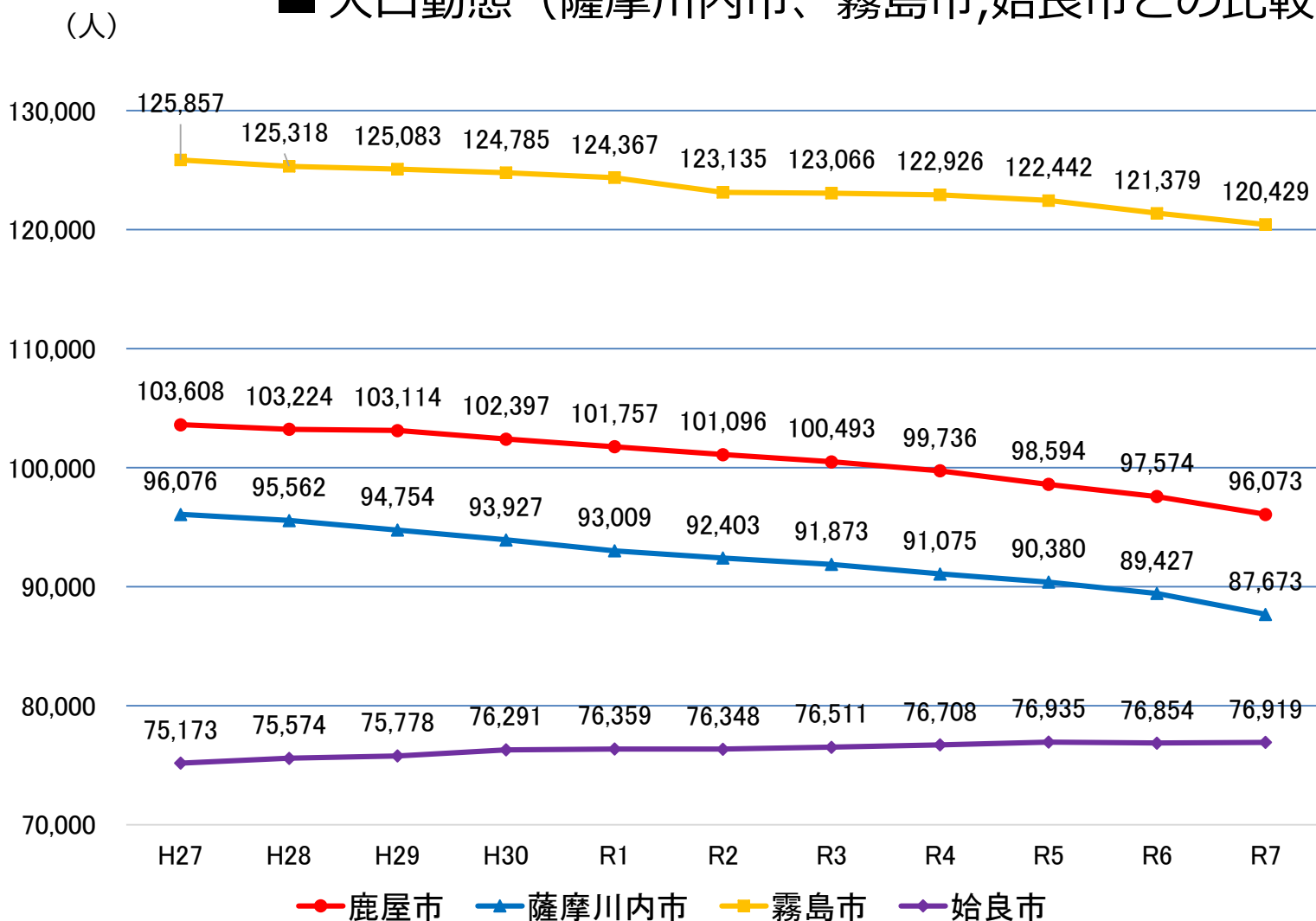


1-7 近隣市の人口推移比較（直近10年間）

近隣市との比較

- ・直近10年間で人口が増加している自治体は、県内では始良市のみ。

■ 人口動態（薩摩川内市、霧島市、始良市との比較）



霧島市は、10年間で
▲5,428人
(▲4.31%)

鹿屋市は、10年間で
▲7,535人
(▲7.27%)

薩摩川内市は、10年間で
▲8,403人
(▲8.75%)

始良市は、10年間で
1,746人
(2.32%)

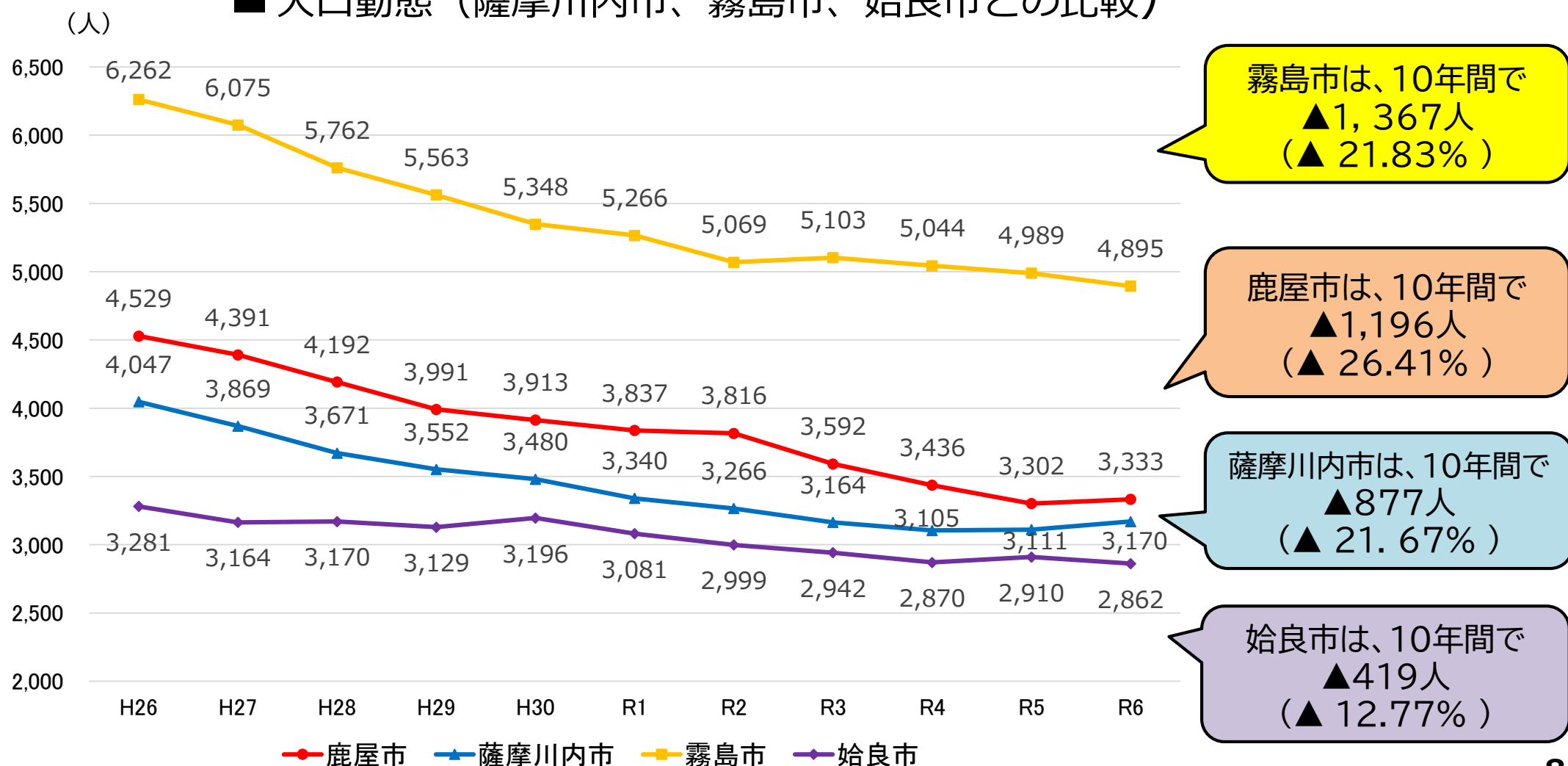
1-8 若年女性人口の推移比較【参考】

近隣市との比較

- ・本市の若年女性人口の減少率は、近隣市と比較しても高い水準にある。

※鹿児島県の「年齢別人口等」の令和7年度データ未公表。

■ 人口動態（薩摩川内市、霧島市、姶良市との比較）



1-9 若者（39歳以下）の意見（令和7年鹿屋市民意識調査）

仕事

- 鹿屋市では年々、人が減っていて、もちろん少子高齢化もあると思うが、職の選択肢が少ないのもあると思う。もう少し職に力を入れたほうがいいと思う。（10歳代）
- この環境を生かしていかなければもったいないので、農林水産業界からもっと盛り上げて欲しい。また、働きやすさなどの魅力がもう少しあれば、鹿屋に来て仕事がしたいという人も増えるのではないかなと思う。（20歳代）
- 大隅半島で大きな市としてもっと企業誘致して働く場所と賃金向上の政策を望みます。大学も体育大しかなく、一般大学が無い上に高卒での就職では給料が低い。大卒でも魅力的な企業がなければ鹿屋に帰ってこない。（30歳代）

住環境

- 学生としては、どこにも行きづらい（10歳代）
- 病院が少ない。予約が埋まっていて初診対応できないところが多い。また、お店などが少なく、休みのたびに鹿児島市内にあそびにいつている。（20歳代）
- 図書館などの公共施設が不便な場所にあり、こども達が利用しにくい。リナシティの活用方法ももっとこどもに寄りそった施設になれば良いのではないかなと思う（30歳代）

子育て教育

- 授業などでICT機器を活用した学習が良かった。（10歳代）
- 子育てがしにくい、夏は日差しが厳しくて外では遊べないので屋内施設がもっと増えてほしい。（20歳代）
- 都会ではないが、ある程度、色々なお店があり便利だし、病院や公園などもいくつもあり、子育てするのにいい場所だと思う。（30歳代）

1-10 大隅地域の人口推移（直近5年間）

大隅地域の人口推移

- ・大隅半島全体の人口減少幅は鹿屋市よりも大きい。特に3市5町の人口減が顕著
- ・鹿屋市は、**大隅半島全体人口の46.58%**を占める。

鹿児島県の推計人口は、**1,512,969人**(令和7年10月1日現在)

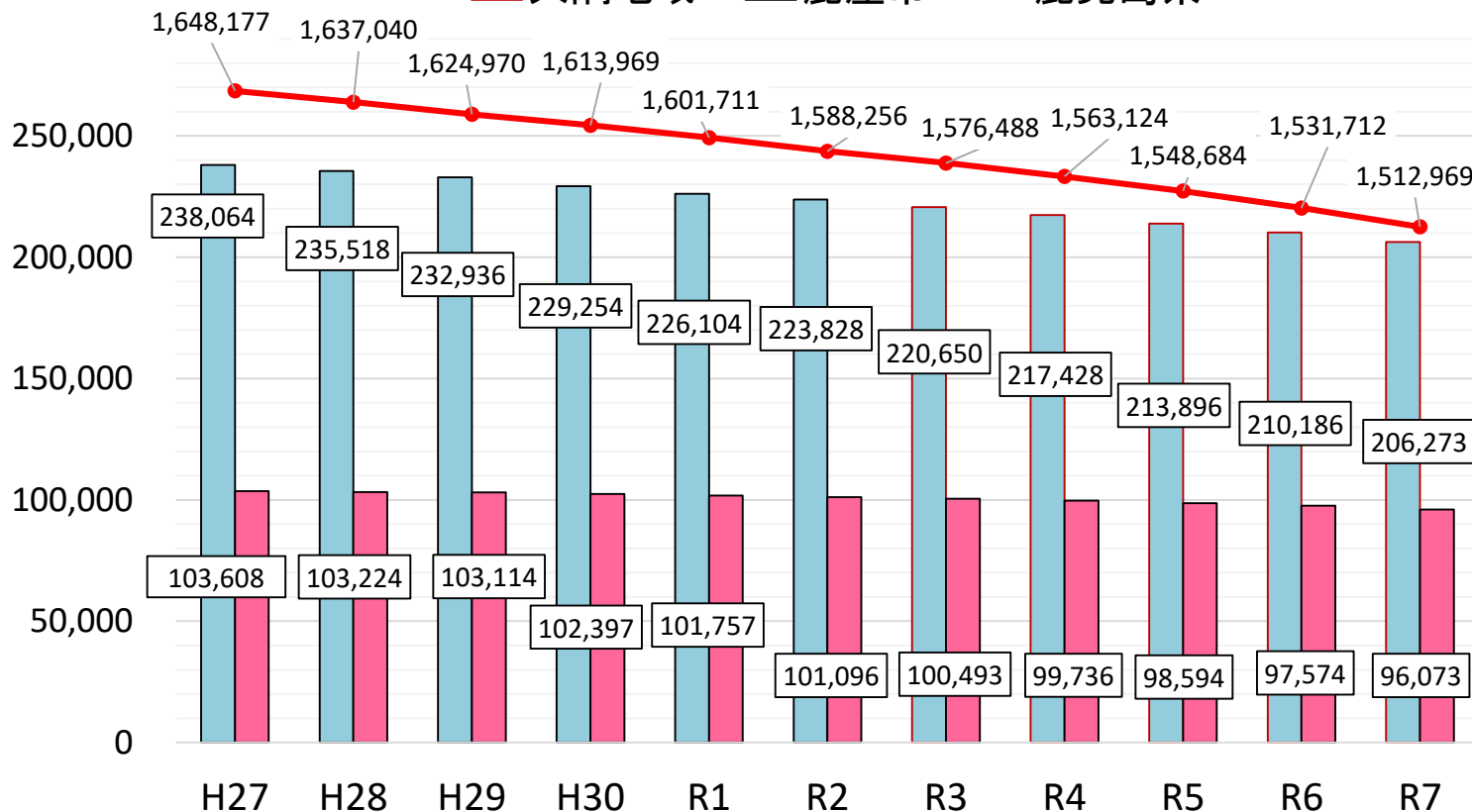
10年前より△**135,208人**（減少率:△**8.20%**）

大隅地域は、**206,273人**(令和7年10月1日現在) 10年前より△**31,791人**（減少率:△**13.35%**）

鹿屋市は、**96,073人**(令和7年10月1日現在) 10年前より △**7,535人**（減少率:△**7.27%**）

(単位:人)

大隅地域 鹿屋市 鹿児島県



(単位:人)

【参考】

垂水市	(-21.06%)
曾於市	(-18.32%)
志布志市	(-13.84%)
大崎町	(-15.50%)
東串良町	(-9.80%)
錦江町	(-27.39%)
南大隅町	(-29.04%)
肝付町	(-18.39%)

(出典:鹿児島県人口移動調査)

2 まち・ひと・しごと創生総合戦略成果指標の取組状況

基本目標	指標数 (事業数)	主な事業	成果指標達成状況（R7年度）			
			◎ 達成	○ 概ね達成	△ 未達成	× 見直しが 必要
基本目標 1 やってみたい仕事 が広がるまち	17 (15)	◎商工業活性化推進事業 ○小規模区画整備モデル事業 ×新たな工業団地整備事業	5	7	1	4
基本目標 2 交流で賑わうまち	19 (16)	◎ふるさと鹿屋応援事業 ○ばらを活かしたまちづくり推進事業 △定住促進事業	11	5	2	1
基本目標 3 こども・若者の未来を 創るまち	23 (23)	◎妊産婦乳幼児健康診査事業 ◎鹿屋寺子屋事業 ○かのや授業力向上事業	12	11	0	0
基本目標 4 安心して暮らし続けられ るまち	23 (23)	◎総合交通対策事業 ○雨水排水対策事業 △災害につよいまちづくり事業	9	12	1	1
基本目標 5 ともに支えあい、いき いきと暮らせるまち	13 (12)	◎高齢者地域支え合いグループポイン ト事業 ◎人権・男女共同参画推進事業 ○みんなで楽しむスポーツライフ推進 事業	7	6	0	0
合計	95 (89)		44	41	4	6

※各基本目標において、重複する指標及び事業を差し引いて算出

2-1-1 R7主な取組状況と成果等（やってみたい仕事広がるまち）

■ 活力ある農林水産業の振興

○ 加工・流通・販路開拓

川中・川下のニーズに応じた農林水産物・加工品の販路開拓・拡大を推進した。



【個別商談会＆産地視察ツアー】

○ 環境に配慮した農業の推進

畜産業における環境対策の強化などのほか、有機農業の拡大に向け、実証展示ほ場の設置や専門家による技術指導講習会の開催など、環境に配慮した農業を推進した。



【畜産の臭気対策】

■ 商工業の振興と雇用の促進

○ 企業誘致等の推進

関係機関等と連携した、企業の進出や既存立地企業の事業拡大等の促進による、魅力的な雇用の場の拡大と地域経済の活性化を推進した。



【工場の誘致】

○ 若者の就労支援

地元企業の採用・人材育成・定着への支援のほか、市内外の若者が地元企業を知る「きっかけづくり」による地元就職率の向上を推進した。



【合同企業説明会】

2-1-2 R7主な取組（やってみたい仕事広がるまち）

基本目標1に紐づく15事業のうち主な事業5つを掲載しています。

No.	事業名	成果指標	R5	R7			R7の達成状況等を踏まえ 改善・強化（工夫）している内容
			実績	目標	実績	評価	
4	小規模区画整備モデル事業	区画整理実施地区数	—	3地区	2地区	○	・これまでの担い手等への周知に加え、事業内容・効果を市HPに掲載し、更なる周知を図る。 ・土地改良区等と連携し、検討中の農家(田崎地区や野里地区)と実施に向けた協議を行う予定。
6	畜産経営活性化対策事業	中核農家（20頭以上）割合	28.4%	30.8%	29.1%	○	・新たな経営形態の創出と基本に立ち帰った専門員の指導に基づき、経営の向上と更なる生活基盤の拡大を図り、畜産経営の活性化を図る。
12	商工業活性化推進事業	創業支援等事業による創業者	61件	50件	54件	◎	・鹿屋市産業支援センターを中心とした相談体制を継続し、創業応援ネットワーク構成機関との情報共有を強化し、相談段階から創業後まで切れ目のない支援を実施する。
15	企業誘致・サポート推進事業	立地協定締結件数	2件	2件	1件	△	・民間事業者等と連携した企業訪問やトップセールスを実施するほか、立地企業の訪問・ヒアリングによる投資ニーズの情報収集に努める。
19	地元就職支援事業	地元企業との雇用マッチング数	36人	40人	57人	◎	・民間企業との連携による進学説明会の同時開催で、進学希望者を含む学校単位の参加を促進し、地元企業の認知度向上を図る。

◎…達成されている ○…概ね達成されている △…達成されていない ×…見直しが必要

（達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満）

（★削減目標の場合：◎…0%以下、○…+40%以下、△…+80%以下、×…+80%を超える）

2-2-1 R7主な取組状況と成果等（交流で賑わうまち）

■地域資源を生かした観光の推進

○シティプロモーションの推進

効果的・戦略的なセールス活動・情報発信により本市の認知度を高めるほか、様々な媒体・本市特有のキャラクター等による積極的なシティプロモーションを推進した。



【カンパチロウフェス】 【白米友好都市】

○観光分野における広域・官民連携の強化

大隅地域の自治体と民間事業者が一体となって観光・物産情報の発信や広域観光ルートの構築に取り組み、広域観光を推進した。



【本市の観光地】

■スポーツによる交流の推進

○スポーツ合宿・大会の推進

スポーツ合宿による地域・経済の活性化やスポーツ交流人口の増加を図るため、合宿等の誘致を推進した。



【野里運動公園】

■移住・定住の推進

○移住・定住支援制度の充実

都市部からの移住に対する支援及び移住希望者の就業支援のほか、空き家バンクの充実による移住・定住を推進した。



【移住体験ツアー】

2-2-2 R7主な取組（交流で賑わうまち）

基本目標2に紐づく16事業のうち主な事業5つを掲載しています。

No.	事業名	成果指標	R5	R7			R7の達成状況等を踏まえ 改善・強化（工夫）している内容
			実績	目標	実績	評価	
22	ふるさと鹿屋 応援事業	寄附件数	179,400 件	187,600 件	233,847 件	◎	・寄附の8割がうなぎに集中し、リピート率が20%台と低迷していることから、新規寄附者に対し、お礼状等を送付し、リピーター創出とリスク分散を図る。
23	「大隅はひとつ！」大隅広域観光推進プロジェクト事業	大隅地域延べ宿泊者数	507,341 人	514,000 人	509,202 人	○	・域内の回遊性・滞在型観光の向上、域内経済効果の拡大を図るため、大隅の地域資源である食をテーマにした誘客キャンペーンや、交通事業者等との連携による誘客促進事業等を実施する。
27	ばらを活かしたまちづくり推進事業	ばら園入園者数	72,165 人	80,000 人	59,929 人	○	・ばら好き、花好き以外にも楽しめるイベントの企画を推進するほか、地域おこし協力隊(鹿屋バズらせ屋)と連携したSNS発信の強化や、民間バスツアー等への売込みなどで誘客促進を図る。
33	スポーツ合宿まちづくり推進事業	県内外からのスポーツ合宿者数	49,848 人	39,000 人	47,872 人	◎	・体育大学OB・OGのネットワークを活用した誘致活動の展開と、官民連携の「かのやスポーツコミッション」を活用した着地型大会や合宿の創生に取り組む。
36	定住促進事業	移住相談件数	202件	400件	229件	△	・HPやSNS、移住フェア出展などにより、鹿屋市のPR及び支援制度の周知に努めるほか、移住体験ツアーの改善を行い、より魅力が伝わる内容とする。

◎…達成されている ○…概ね達成されている △…達成されていない ×…見直しが必要

（達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満）

（★削減目標の場合：◎…0%以下、○…+40%以下、△…+80%以下、×…+80%を超える）

2-3-1 R7主な取組状況と成果等（こども・若者の未来を創るまち）

■こども・若者を育む環境の充実

○子育て家庭支援策の充実

病児保育の無償化や、子ども医療費の完全無償化など、子育て家庭の経済的な負担を軽減し、多様な保育サービスの充実を図った。

こども誰でも
通園制度

【こども誰でも通園制度】

○若者の自立支援

ライフプランを考える機会の提供による若者のキャリア形成支援のほか、結婚、出産、育児を希望する若者に対する出会い・結婚への支援を推進した。



【メタバース婚活】

■未来を拓く教育の充実

○豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

家族とのふれあいを通じて、こどもたちが基本的な生活習慣や生活能力、思いやりなどを身に付けるための家庭教育を支援した。



【kanOYAトーク】

○地域特性を生かした教育の推進

グローバル社会で活躍できるグローバル人材の育成事業と、台湾の小・中・高等学校との英語を通じた交流による英語教育の質の向上を推進した。



【台湾学校との交流】

2-3-2 R7主な取組（こども・若者の未来を創るまち）

基本目標3に紐づく23事業のうち主な事業5つを掲載しています。

No.	事業名	成果指標	R5	R7			R7の達成状況等を踏まえ 改善・強化（工夫）している内容
			実績	目標	実績	評価	
45	妊産婦乳幼児健康診査事業	各種乳幼児健診受診率	93.1%	95%	95.6%	◎	・母子保健推進員等による未受診者訪問やxIDによるデジタル通知を利用した受診勧奨、感染症対策を講じた健診を実施している。
49	幼稚園・保育所等給付費	★潜在的待機児童数	79人	60人	47人	◎	・空き施設の提案等を行い、保護者にとって、様々な選択が取れるよう努めた。
54	鹿屋寺子屋事業	寺子屋事業参加者満足度	—	90%	99%	◎	・児童によりよい学びの環境を届けるため、寺子屋シンポジウムを企画し開催した。また、参加者との意見交流会を行うことで指導員の資質向上と保護者・地域の方々への周知が図られた。
60	「心の架け橋プロジェクト」事業	1,000人当たりの不登校児童生徒の在籍数	23.7人	23.5人	27.3人	○	・鹿屋市教育支援センターを新たに5カ所新設し、児童生徒の新たな居場所づくりを行っている。そのため、MF指導員を1名増員し、対応している。
68	グローバル教育推進事業	CEFRA1レベル（英検3級相当）の英語力のある生徒の割合（中学3年生）	38%	40%	54.2%	◎	・英語指導法研修会等を通して、小中高の英語教諭・英語指導講師（JTE）・ALTが連携し指導力の改善を図っている。

◎…達成されている ○…概ね達成されている △…達成されていない ×…見直しが必要

（達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満）

（★削減目標の場合：◎…0%以下、○…+40%以下、△…+80%以下、×…+80%を超える）

2-4-1 R7主な取組状況と成果等（安心して暮らし続けられるまち）

■ 快適な生活基盤づくりの推進

○ 持続可能な公共交通の構築

複数市町間を結ぶ路線バスを確保するとともに、公共交通空白地域を解消するためにデマンド交通のエリアを拡大し、市民の円滑な移動の確保や利便性の向上を図った。



【かのや市乗合ワゴン（串良線）】

○ デジタル基盤の活用

市民サービスのさらなる拡充に向け、デジタルの積極的な活用を推進するとともに、高齢者等もその利便性を享受できるよう、住民のデジタルリテラシー向上に向けた取組を行った。



【デジタル郵便】

■ 安全で安心な生活の実現

○ 防災・消防対策の充実

南海トラフ地震を見据え、家屋の耐震化の促進や市民の防災意識の向上を図り、地域防災力の向上を推進した。



【親子防災フェスティバル】

■ 自然環境にやさしいまちづくりの推進

○ ごみ減量・リサイクルの推進

ごみの減量、リサイクル・資源分別を促進していくため、適切な分別方法やごみの出し方など、幅広い周知に努めた。



【出前講座】

2-4-2 R7主な取組（安心して暮らし続けられるまち）

基本目標4に紐づく23事業のうち主な事業5つを掲載しています。

No.	事業名	成果指標	R5	R7			R7の達成状況等を踏まえ 改善・強化（工夫）している内容
			実績	目標	実績	評価	
72	総合交通対策事業	くるりんバス 及び乗合ワゴン 利用者数	42,621 人	44,000 人	47,170 人	◎	・メインターゲットである高齢者に近い民生委員等を通じた周知活動のほか、利用者アンケートやニーズ調査により、乗降ポイントや運行時刻を見直すなど利便性の向上を図った。
75	雨水排水対策事業	★冠水箇所	27箇所	24箇所	26箇所	○	・今後も継続して雨水排水対策に取り組む必要があることから、次期計画の策定に向けて調査・検討を行っている。 ・「笠野原雨水排水懇談会」を活用し、笠野原台地における内水対策の検討を行っている。
80	小型合併処理浄化槽設置整備事業	補助設置基数	241基	250基	203基	○	・広報誌、HP等での広報や浄化槽施工業者へ補助制度周知の協力を依頼し、合併処理浄化槽の設置を促進する。
82	災害につよ いまちづくり 事業	防災・減災活動を実施した 自主防災組織 （町内会）	17件	30件	17件	△	・地域に居住している市地域防災リーダーの連絡先を町内会長に提供することによって、防災リーダーと町内会(自主防災組織)とのつながりを強化し、自主防災組織の活動の促進を図った。
91	ごみ減量・ リサイクル 事業	★1人1日当 たりごみ量 （資源物除 く）	748 g/日	670 g/日	731 g/日	○	・引き続きごみの量の集計・分析を行うとともに、住民へのごみ分別の周知徹底を行う。新たに、企業と連携したごみ減量に向けた取組を検討する。

◎…達成されている ○…概ね達成されている △…達成されていない ×…見直しが必要

（達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満）

（★削減目標の場合：◎…0%以下、○…+40%以下、△…+80%以下、×…+80%を超える）

2-5-1 R7主な取組状況と成果等（ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち）

■ 地域福祉の充実

○ 高齢者福祉の充実

高齢者が元気に地域づくりや生活支援の担い手として活躍できるよう、地域一体となった支えあい体制の構築に努めた。



【生活支援コーディネーター】

■ 共生協働・コミュニティ活動の推進

○ 地域支援体制の充実

地域の課題を住民自らが主体的に解決する取組を促すとともに、課題解決に取り組む地域運営組織等の取組を支援した。



【ふるえ海祭り】

■ 健康づくり・生きがいのづくりの推進

○ 介護予防の推進と高齢者の生きがいのづくり

各種健診の受診を勧奨し健康意識の向上を図るとともに、健康づくりと社会参加を一体的に促す仕組みを構築し、介護予防と高齢者の生きがいのづくりを推進した。



【高齢者福祉共通券の交付】

○ 健康寿命の延伸

様々な世代での生活習慣病や感染症の発症予防・重症化予防のための各種健診や予防接種を実施するとともに、啓発を行い健康寿命の延伸を図った。



【ベジチェック】

2-5-2 R7主な取組（ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち）

基本目標5に紐づく12事業のうち主な事業5つを掲載しています。

No.	事業名	成果指標	R5	R7			R7の達成状況等を踏まえ 改善・強化（工夫）している内容
			実績	目標	実績	評価	
92	みんなで楽しむ スポーツライフ 推進事業	生涯スポーツ イベント参加 者数	2,170 人	2,000 人	3,740 人	◎	・スポーツ実施率日本一に向けた鹿屋体育 大学との連携強化や、スポーツ実施率の低 い働き世代・子育て世代のスポーツ実施率 向上のための取り組みを強化する。
93	重層的支援体制 整備事業（高齢 者福祉関係事業）	高齢者の運動 サロン等への 参加人数	2,063 人	2,220 人	1,931 人	○	・サロンの状況に応じた運動メニューの提 案や、課題を抱えたサロンへの積極的な介 入に取り組み、参加者の増加を図る。
97	地域コミュニ ティ推進事業	地域運営組織 数、コミュニ ティ協議会設 置数	8団体	8団体	9団体	◎	・基本指針の改訂に合わせて、地域コミュ ニティ協議会等の推進方針を検討し、目指 すべき地域コミュニティづくりの考え方を 整理する。
101	高齢者地域支え 合いグループポ イント事業	個人・団体ボラ ンティア活動 者数	3,815 人	4,200 人	4,423 人	◎	・利用者層拡大のため、個人のボランティ ア活動についてスマートフォンアプリ （Payどん）を活用したポイント付与をR7 から実施している。
102	人権・男女共同 参画推進事業	社会全体にお いて男女が 「平等であ る」と感じる 人の割合	14.2%	16.0%	26.5%	◎	・講演会、セミナー等のテーマの見直しや、 広報・啓発活動の強化、事業所等への訪問 により実情を把握した上での企業向けセミ ナーの企画などに取り組んでいる。

◎…達成されている ○…概ね達成されている △…達成されていない ×…見直しが必要

（達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満）

（★削減目標の場合：◎…0%以下、○…+40%以下、△…+80%以下、×…+80%を超える）

地域未来交付金活用事業の実績報告について

地域未来交付金

地域未来 推進型

地方の大きな伸び代と地域特性を最大限に活かし、地場産業の付加価値向上等を通じて地方の暮らしの安定を実現し、「強い経済」を構築するため、地方公共団体の自主性と創意工夫に基づく地域独自の取組を、計画から実施まで後押しする。



スタートアップ支援拠点の整備



地場製品の販売促進



温泉施設等観光拠点の整備



デジタル実装型

デジタル技術を活用した地域の課題解決や魅力向上に資する取組を支援

書かない窓口



地域アプリ



オンライン診療



■ 地域未来交付金推進型

出典：内閣府地方創生推進事務局：「地域未来推進型の制度概要について」から抜粋

事業区分	概要	事業計画期間	上限額・補助率
ソフト事業	新たな取組に向けた構想・企画、具体化、事業実施段階に要する ソフト経費 を支援	原則3か年度以内 (最長5か年度)	国 費：10億円/年度 補助率：1/2
拠点整備事業	地域資源の活用や地場産業の付加価値向上に資する 拠点施設（建築物・設備・備品等）の整備		
インフラ整備事業	戦略産業クラスター等の形成に必要なとなる、従来の枠を超えた 幅広いインフラの整備	原則5か年度以内 (最長7か年度)	国 費：10億円/年度 補助率：1/2等 ※各省庁交付要綱による

■ デジタル実装型

出典：内閣府地方創生推進室ほか：「地域未来交付金デジタル実装型TYPEA/V/S制度概要」から抜粋

事業区分	概要	上限額・補助率
TYPE S デジタル行財政 改革特化型	「デジタル行財政改革」の基本的考え方に合致し、将来的に国や地方の統一的・標準的なデジタル基盤への横展開につながる 先行的・モデル的な取組 を支援する。	国 費：2.25億円 補助率：3/4
TYPE V 先進的デジタル 公共財活用型	デジタル公共財または新型デジタル公共財を、 複数の地方公共団体で共同調達・共同利用 する先進的な取組を支援する。	国 費：4億円 補助率：2/3
TYPE A 地域住民等利用 推進型	地域住民等がデジタルサービスの利用を通じて、その 効果を実感できる取組 （新たな分野でのサービス実装など）を支援する。	国 費：1億円 補助率：1/2

事業概要：空がつなぐヒト・コト・モノ交流推進プロジェクト

【観光PR課】

交付金区分	地域未来推進型		
目的	空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会を中心に5市町連携により“ヒト・コト・モノの交流”を深め、平和学習、平和ツーリズムの推進を図る。ICT技術を活用した観光コンテンツの創出や歴史資料のデジタル化を図るとともに、各市町の戦争遺産を活用した共同プロモーションを実施し、戦後80年を契機とした平和ツーリズムの推進と更なる認知度向上・集客を図り、まちの賑わいを生み出す。	総事業費 (うち交付金 充当額)	8,746千円 (4,372千円)
事業概要	■取組①（ヒトの交流） ・空がつなぐ・ひとづくり推進協議会による共同事業（動画作成、リーフレット増刷） ・鹿屋市子ども平和学習ガイドレベルアップ研修 ■取組②（コトの交流） ・創作演劇「野里国民学校」の映像化 ・戦後80年特別企画展におけるアーカイブ映像の展示 ・デジタル戦跡マップ制作 ・戦争体験談集の印刷製本		

KPI項目	目標値 (R7)	実績値 (R7)
①観光ガイドによる平和関連施設案内者数	4,500人	1,331人
②児童生徒の相互平和学習・交流による参加校数	4校	6校



事業概要：保育施設等AI入所調整システム導入事業

【こども政策課】

交付金区分	デジタル実装型		
目的	保育所等入所選考事務において、AIを活用した入所選考システムを導入することにより入所決定までの期間を短縮し、市民サービスの向上と職員の事務負担軽減を目指す。	総事業費 (うち交付金 充当額)	5,672千円(2,836千円)
事業概要	申請者の世帯状況や保育ニーズ等による希望園の多岐化を鑑み、複雑な内容や判定条件に従って手作業で行っている保育所等入所選考事務に対し、入所選考AIシステムを導入することで、職員作業の負担軽減及び、事務処理の効率化による選考結果通知の早期化を図り、職員の業務改善と一人ひとりに対する窓口対応の時間確保による市民サービスの向上につなげ、子育て世代が安心できる保育環境を提供する。		

KPI項目	目標値 (R7)	実績値 (R7)
①保護者への選考通知の早期化	89日	77日
②AI入所選考システム利用率	80%	100%
③子育てに対する環境や支援に満足している市民の割合（市民意識調査）	73%	—
④保育事務処理時間の削減	482時間	262時間

